

一般社団法人 日本計算工学会 2018 年度定時社員総会

総 会 議 事 次 第

第 I 部

■議 事

- 2017 年度 事業報告
- 2017 年度 決算報告
- 2017 年度 監査報告
- 2018・2019 年度 役員選任の件(案)
- 2018 年度 事業計画(案)
- 2018 年度 事業予算(案)
- 諸規程制定(案)

■資 料

- (1) 総会議事次第
- (2) 第 1 号議案 2017 年度 事業報告書
- (3) 第 2 号議案 2017 年度 決算報告書
- (4) 第 3 号議案 2017 年度 監査報告書
- (5) 第 4 号議案 2018・2019 年度 役員選任の件(案)
- (6) 第 5 号議案 2018 年度 事業計画(案)
- (7) 第 6 号議案 2018 年度 事業予算(案)
- (8) 第 7 号議案 諸規程制定(案)

第 II 部

- 表 彰 式 2017 年度 学会賞・フェロー 授賞授与

2018 年 5 月 22 日(火) 14:00 より

東京大学 伊藤国際学術研究センター

【第1号議案】

2017年度

事業報告書

自 2017年4月 1日

至 2018年3月31日

2017年度事業報告書

活動概要

2017年度は、『計算工学の学術的深化と産業利用の高度化のための会員活動の活性化を促進し、それらの相乗効果を生み出すため、及び人材育成活動や国際交流活動を拡充するための新たな体制について、実現可能なものから形にしていく。』という活動方針のもとで、学会運営の効率化および適正化を図りながら、規程類の整備をほぼ完了させるなど、ToDoリストの項目を着実に履行した。そして、これまで以上に学会誌と論文集の編集・発刊、計算工学講演会の企画・運営、教育・出版活動、会員活動、広報活動、研究会活動、国際交流活動を活性化し、幾つかの新たな事業にも取り組んだ。特に、計算工学会論文集の更なる活性化と産業界からの投稿を促す目的でスコープを明確化し、編集委員に民間からの委員を加えたほか、研究会を主体とする特集号を発刊した。さらに、講習会の分野も拡充して、広く広報活動を行うことで多くの若手および産業界における人材育成に貢献した。これらの事業の適切な履行と成功は、財務運営の健全化にも繋がっている。当然、役員と事務局だけでなし得るのではなく、各種委員会の委員の方々のご貢献に依るところが大きい。ここに事業に関わった方々全員に感謝したい（別紙1参照）。各事業についての詳しい説明は以下の通りである。

1. 通常総会の開催

2017年度定時社員総会を、2017年5月19日に、東京大学伊藤国際学術研究センターにて開催した。

また、総会記念シンポジウム「地盤・岩盤工学の発展に貢献してきた計算工学の役割を振り返って」と題して、京都大学 大西有三 氏に基調講演をいただいた。

2. 理事会の開催

2017年度の理事会は、2017年7月14日、9月21日、11月28日、2018年1月23日、3月22日、5月8日の6回開催した。

3. 規程類の整備

以下の規程・内規・申し合わせについて、未制定分を制定したり、不備の修正により改定したりした。合わせて、担当理事の役割と責任を明確化した。

規程： 会員規程（制定）、会費規程（制定）、役員等の報酬及び費用に関する規程（総会議案作成）、会員会費細則（制定）、表彰規程（改定）、会計管理規程（改定）、講習会規程（制定）、研究会規程（改定）、研究会委員会規程（制定）

内規： 功績賞選考内規（制定）、川井メダル選考内規（制定）、庄子メダル選考内規（制定）、論文賞選考内規（改定）、技術賞選考内規（改定）、論文奨励賞選考内規（改定）、博士論文賞選考内規（改定）、功労賞選考内規（制定）、会誌委員会内規（制定）、スカラシップアワード選考内規（改定）、研究会委員会内規（制定）

申し合わせ： 表彰における会員資格確認に関する申し合わせ（改定）、旅費に関する申し合わせ（改定）、会議費に関する申し合わせ（制定）、ニュースレター発行に関する覚書（改定）、会誌委員会幹事副幹事申し合わせ（制定）

5. 計算工学講演会関係

第22回計算工学講演会を、2017年5月31日より6月2日までソニックシティー（埼玉県さいたま市）において開催した。30件のOSに対して387件の一般講演が行われた。そして、これらの講演原稿を収録したCD-ROM版計算工学講演会論文集Vol.22を発刊した。講演会においてCharbel Farhat教授（米国スタンフォード大学）による特別講演を行い、シンポジウムやランチョンセミナーさらに学生向け特別企画も行った。また、例年通りグラフィクスアワードおよびベストペーパーアワードの表彰も実施した。なお、詳細については別紙2を参照。

6. 講習会・講演会の開催

本学会の活動の成果発信の場として講習会・講演会を開催した。

- (1) HQC 講習会「シミュレーションの品質保証講習会～工学シミュレーションの標準手順の実装と記録作成の課題～」を開催した。（東京、5月11日）
- (2) サマースクール「有限要素法による流れ解析の基礎と応用」を開催した。（東京、8月7日～8月9日）
- (3) オータムスクール「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」を開催した。（大阪、10月4日～10月6日）
- (4) 出版活動成果をより広く発信する場として、「混合法による有限要素解析～統一エネルギー原理とその応用～」をテキストとした「混合法によるノードレス有限要素法の実際」を開催した。（東京、12月7日）
- (5) ウィンタースクール「トポロジー最適化の基礎～積層造形によるモノづくりへの応用～」を開催した。（東京、1月30日）

なお、開催に貢献した方々については別紙3を参照。

7. 若手の支援と活性化

- (1) JSCES スカラーシップアワードの募集・審査・選考を行い、第22回計算工学講演会において表彰した。受賞者は別紙2の通り。
- (2) 学生向けセミナーとして「サマーキャンプ」を開催した（山梨、9月23日～9月24日）。なお、詳細については別紙2を参照。

8. 学会刊行物の企画・刊行

- (1) 計算力学レクチャーコースの書籍として「固有値解析」、「非線形並列有限要素法」、「ボクセル解析」の3冊が執筆中で、2018年度出版の見込みである。
- (2) 学会編として「ソフトコンピューティング（仮）」を執筆中で、2018年度出版見込みである。

9. 学会誌の編集と発行

- (1) 学会誌「計算工学」第22巻2号～4号および第23巻1号を発行した。
- (2) 編集会議を各号発行に合わせて4回実施し、会誌企画と編集作業の進捗を確認した。
- (3) 会誌委員会内部の役割分担、作業手順に関する検討を実施し、内規および申し合わせとして成文化を行った。

- (4) 広告掲載の依頼と掲載ページ等の調整を行った。
- (5) 執筆への謝礼について、理事会の承認を経て、従来の図書カードから商品券への移行を行った。

10. 論文集の編集と表彰

- (1) 日本計算工学会論文集の投稿論文に関して、インターネットを用いた編集を実施し、No. 20170005 から No. 20170017、No. 20180001 から No. 20180007 までの論文を発行した。
- (2) 日本計算工学会論文集の活性化、論文数の増加促進の一環として、特集号を2件企画し、それぞれの特集号 No. 20171001 から No. 20171004、No. 20181001 から No. 20181003、No. 20182001 から No. 20182010 までの論文を発行した。
- (3) 論文集の位置づけを明確化するため、論文集のスコープを立案・作成した。
- (4) 論文賞および論文奨励賞の推薦、審査、審査結果にもとづいた表彰委員会への推薦を行った。
- (5) 論文委員会に産業界からの委員を加え、産業界からの投稿を促進した。

11. 研究会の活動

- (1) 学会として研究会の運営体制の見直しをおこない、研究会委員会を設置した。各研究会は研究会委員会の所轄とした。
- (2) 企画型研究会を廃止し、すべての研究会を公募型研究会に統一した。
- (3) 研究会規程に基づいて、以下の研究会の活動が実施された。

企画型研究会（年度途中で公募型に移行）

- ① ものづくりのための計算工学研究会
- ② S&V (Simulation & Visualization) 研究会

公募型研究会

- ① High Quality Computing (HQC) 研究会
- ② PSE (問題解決環境) 研究会
- ③ 多元災害シミュレーション研究会
- ④ 不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会
- ⑤ ベンチマークデータ共有研究会
- ⑥ 計算工学教育に関する研究会
- ⑦ 自動車構造モデルベース開発研究会

なお、詳細については別紙4を参照

12. 会員活動

- (1) フェロー会員の公募、選考を行った。候補者を理事会に推薦し、以下の1名のフェロー会員が承認された。
越塚 誠一 氏 東京大学
- (2) 民間企業に所属する正会員数の増加のための施策を検討した（特別会員の企業に所属する個人が正会員になる場合の優遇措置など）。

13. 広報活動

- (1) 2017年3月にリニューアルした学会ホームページを効率的に運用し、不適切な個所を適宜修正した。
- (2) ホームページの更新スケジュールの作成と、更新体制を確立した。
- (3) ニュースレターの発信を定期的に行った。
- (4) 定期的なホームページの更新を行った。
- (5) 情報セキュリティの管理体制の維持につとめ、セキュリティ事故はゼロであった。

14. 国際交流活動

- (1) 英文ホームページを内容の充実を図り、本学会の活動を広く海外へ発信した。
- (2) リニューアルされた学会ホームページ（日本語版）の英語版の内容を検討した。
- (3) IACMとの連携を維持した。
 - IACM EXPRESSIONS への投稿（5月、11月）
 - IACM 関連会議(WCCM など)への協力と会員への広報
 - 他国の IACM 支部および学協会との連携
- (4) 国際会議等を企画・支援した。
 - 計算工学講演会に特別講演者（Charbel Farhat 教授(Stanford University)）を招聘した。
 - COMPSAFE2017（2017年10月15-18日、中国・成都）の企画・広報を支援した。
 - WCCM XV & APCOM VIII の誘致・準備に協力するとともに、財政的な支援について検討した。
 - IWACOM-IV の財政的な支援について検討した。
- (5) 第8回日韓ワークショップ（2018年6月7日）を企画した。
- (6) COMPSAFE 2020（2020年3月8日～11日、神戸）準備委員会に参画した。

15. 他学協会との連携

- (1) 関連3学会（日本シミュレーション学会、日本応用数理学会）との交流を図った。
- (2) 「横断型基幹科学技術研究連合会」の活動を支援した。
- (3) 安全工学シンポジウム2017（日本学術会議主催）を共催した。
- (4) 第7回計算力学シンポジウム（日本学術会議主催）を共催した。
- (5) 第64回理論応用力学講演会（日本学術会議主催）を共催した。
- (6) 第3回理論応用力学シンポジウム（日本学術会議主催）を共催した。

16. 寄付・基金

- (1) 庄子基金：庄子メダルの受賞費用等に充てた。
- (2) 川井基金：川井メダルの受賞費用等に充てた。
- (3) JSCES スカラシップアワード基金：WCCM2018などのIACM主催行事に参加予定の若手研究者に対する受賞費用に充てた。

17. 財務

適切なガバナンスのもと、健全な財務運営を実施した。会費収入にもとづく会員向けサービス（非収益事業）の他、一部で収益事業も実施しているが（学会標準・CDROM 販売、講演会展示ブースや学会誌掲載広告等に関する収入）、必要な販売費、一般管理費を考慮すると、収益事業に対する納税は発生していない。

以上

● 運営体制

執行部		
会長	寺田 賢二郎 (東北大学)	
副会長	梅津 康義 (株式会社 JSOL)	山田 貴博 (横浜国立大学)
総務担当理事	長嶋 利夫 (上智大学)	藤川 智士 (マツダ株式会社)
事務局長	石塚 弥生	

会務部門 (担当副会長: 梅津 康義)		
担当	正	副
総務	長嶋 利夫 (上智大学)	藤川 智士 (マツダ株式会社)
財務	藤崎 正英 (富士通株式会社)	長谷川 浩志 (芝浦工業大学)
広報 (広報委員会)	宮地 英生 (東京都市大学)	山崎 伯公 (新日鐵住金株式会社)
会員	中島 研吾 (東京大学)	永野 勝尋 (みずほ情報総研株式会社)
国際 (国際交流委員会)	磯部 大吾郎 (筑波大学)	岡澤 重信 (山梨大学)

事業部門 (担当副会長: 山田 貴博)		
担当	正	副
学会誌 (会誌委員会)	萩原 世也 (佐賀大学)	櫻井 英行 (清水建設株式会社)
論文集 (論文委員会)	西脇 眞二 (京都大学)	塩谷 隆二 (東洋大学)
講演会 (講演会組織委員会)	岡澤 重信 (山梨大学)	長嶋 利夫 (上智大学)・松本 純一 (産業技術総合研究所)
教育・出版	小林 卓哉 (株式会社メカニカルデザイン)	宮地 英生 (東京都市大学)
研究会 (研究会委員会)	渡邊 浩志 (エムエスシーソフトウェア株式会社)	中島 研吾 (東京大学)

監事	
越塚 誠一 (東京大学)	佐々木 直哉 (株式会社日立製作所)

● 表彰委員会

寺田賢二郎 (会長)、山田貴博・梅津康義 (副会長)、長嶋利夫・藤川智士 (総務)、西脇眞二・塩谷隆二 (論文部会)、中島研吾・永野勝尋 (会員)

● 他学協会対応

- 安全工学シンポジウム (日本学術会議): 澁谷 忠弘 (横浜国立大学)
- 理論応用力学シンポジウム (日本学術会議): 岡澤 重信 (山梨大学)
- 計算力学シンポジウム (日本学術会議): 松本 純一 (産業技術総合研究所)
- 横断型基幹科学技術研究団体連合: 梅津 康義 (株式会社 JSOL)
- 日本工学会: 長谷川 浩志 (芝浦工業大学)

- 広報委員会
 - 委員長：宮地 英生（東京都市大学）
 - 副委員長：山崎 伯公（新日鐵住金株式会社）
 - 幹事：車谷 麻緒（茨城大学）
 - 委員（研究会 HP 担当）：手塚 明（産業技術総合研究所、ものづくりのための計算工学研究会）、松井 和己（横浜国立大学、HQC 研究会）、早勢 欣和（富山高等専門学校、S&V 研究会・PSE 研究会）、車谷 麻緒（茨城大学、多元災害シミュレーション研究会）、永井学志（岐阜大学、不確かさのモデリング・シミュレーション研究会）、橋本 学（東京大学、ベンチマーク共有研究会）、長嶋 利夫（上智大学、計算工学教育に関する研究会）、河口 篤志（豊田中央研究所、自動車構造モデルベース開発研究会）
 - オブザーバ：平林 智子（豊田中央研究所）、下川辺 隆史（東京大学）、磯部 大吾郎（筑波大学）、田中 聖三（筑波大学）

- 国際交流委員会
 - 委員長：磯部 大吾郎（筑波大学）
 - 副委員長：岡澤 重信（山梨大学）
 - 委員：浅井 光輝（九州大学）、加藤 準治（東北大学／名古屋大学）、田中 聖三（筑波大学）

- 会誌委員会
 - 委員長：萩原 世也（佐賀大学）
 - 副委員長：櫻井 英行（清水建設株式会社）
 - 委員：田中 聖三（筑波大学）、新宅 勇一（筑波大学）、大西 有希（東京工業大学）、荒井 葉月（サイバネットシステム株式会社）、梅田 浩紀（キヤノン株式会社）、金澤 宏幸（富士通株式会社）、坂倉 耕太（日本電気株式会社）、高原 浩志（日本電気株式会社）、只野 裕一（佐賀大学）、中島 研吾（東京大学）、永野 秀明（東京都市大学）、長谷部 寛（日本大学）、平林 智子（豊田中央研究所）、松井 和己（横浜国立大学）、山田 知典（東京大学）、渡邊 大（芝浦工業大学）、渡邊 浩志（エムエスシーソフトウェア株式会社）

- 論文集委員会
 - 委員長：西脇 眞二（京都大学）
 - 副委員長：塩谷 隆二（東洋大学）
 - 委員：大山 聖（宇宙航空研究開発機構）、岡田 裕（東京理科大学）、北山 哲士（金沢大学）、白崎 実（横浜国立大学）、白山 晋（東京大学）、長嶋 利夫（上智大学）、萩原 世也（佐賀大学）、山崎 伯公（新日鐵住金株式会社）、渡邊 浩志（エムエスシーソフトウェア株式会社）

- 研究会委員会
 - 委員長：渡邊 浩志（エムエスシーソフトウェア株式会社）
 - 副委員長：中島 研吾（東京大学）
 - 委員：浅井 光輝（九州大学、多元災害シミュレーション研究会）、岡澤 重信（山梨大学、自動車構造モデルベース開発研究会）、菊地 彪（数値解析開発株式会社、計算工学教育に関する研究会）、櫻井 英行（清水建設株式会社、HQC 研究会）、高野 直樹（慶應義塾大学、不確か

【第1号議案】
(別紙1)

さのモデリング・シミュレーション研究会)、手塚 明 (産業技術総合研究所、ものづくりのための計算工学研究会)、橋本 学 (東京大学、ベンチマーク共有研究会)、日置 慎治 (帝塚山大学、PSE 研究会)、前田 太陽 (埼玉工業大学、PSE 研究会)

● 講演会実行委員会

- 委員長：岡澤 重信 (山梨大学)
- 副委員長：長嶋 利夫 (上智大学)、松本 純一 (産業技術総合研究所)
- 現地実行委員長：荻野 正雄 (名古屋大学)
- 委員：荒井 政大 (名古屋大学)、荒井 葉月 (サイバネットシステム株式会社)、石田 智裕 (サイバネットシステム株式会社)、磯部 大吾郎 (筑波大学)、岩井 信弘 (ZF TRW オートモーティブジャパン)、江口 和徳 (エムエスシーソフトウェア株式会社)、大井 秀哉 (プログレス・テクノロジーズ)、加藤 準治 (東北大学/名古屋大学)、河合 浩志 (東洋大学)、桐山 貴俊 (清水建設)、車谷 麻緒 (茨城大学)、紅露 一寛 (新潟大学)、佐々木 直哉 (株式会社日立製作所)、猿渡 智治 (株式会社 JSOL)、澤田 有弘 (産業技術総合研究所)、下川辺 隆史 (東京大学)、白崎 実 (横浜国立大学)、鈴木 正昭 (東京理科大学)、高橋 昭如 (東京理科大学)、中住 昭吾 (産業技術総合研究所)、長谷川 浩志 (芝浦工業大学)、藤澤 智光 (プロメテック・ソフトウェア株式会社)、松岡 大祐 (海洋研究開発機構)、宮地 英生 (東京都市大学)、村松 眞由 (東北大学/慶應義塾大学)、渡邊 大 (芝浦工業大学)、渡邊 浩志 (エムエスシーソフトウェア株式会社)

第22回計算工学講演会

2017年5月31日(水)～6月2日(金)

ソニックシティ

【グラフィックスアワード】(6件)

最優秀賞:

作品名: 鉄筋コンクリートに発生・進展するひび割れの3次元造形化

講演論文題目: 破壊シミュレーションに基づく鉄筋コンクリートのひび割れの3次元造形化

著者: 佐々木 浩武、相馬 悠人、邊見 哲一、車谷 麻緒 (茨城大)

優秀賞:

作品名: 表面形状を考慮した粘弾性体の将棋倒しシミュレーション

講演論文題目: Large-scale Simulations of Viscoelastic Multi-body Systems Using Quadruple Discrete Element Method on Supercomputers

著者: 都築 怜理 (JSPS)、西浦 泰介、阪口 秀 (海洋研究開発機構)

特別賞 (MicroAVS 賞):

作品名: 格子ボルツマン法を用いたイルカのフリースイミングの数値解析

講演論文題目: 格子ボルツマン法を用いたイルカのフリースイミングの数値解析

著者: 岩崎 颯、青木 尊之、渡辺 勢也、長谷川 雄太 (東京工業大)

特別賞 (MSC Apex 賞):

作品名: 表面形状を考慮した粘弾性体の将棋倒しシミュレーション

講演論文題目: Large-scale Simulations of Viscoelastic Multi-body Systems Using Quadruple Discrete Element Method on Supercomputers

著者: 都築 怜理 (JSPS)、西浦 泰介、阪口 秀 (海洋研究開発機構)

特別賞 (Meshman 賞):

作品名: MPS法による津波解析と津波波力を外力とした駅舎の構造解析の結果

講演論文題目: MPS法を用いた鉄道構造物に対する津波波圧による構造解析

著者: 室谷 浩平、高垣 昌和 (鉄道総合技術研究所)

特別賞 (ビジュアルコンピューティング賞):

作品名: 複数GPUを用いた濡れた床へ浸水するダム崩壊の完全陽解法計算

講演論文題目: 複数GPUを用いた完全陽解法による気液二相流計算

著者: 松下 真太郎、青木 尊之 (東京工業大)

【ベストペーパーアワード】(3件)

題目：マルチスケール Cohesive Zone Model による亀裂解析

著者：浦田 新吾 (旭硝子株式会社)、Shaofan Li (University of California, Berkeley)

題目：塗膜析出前の濁りと履歴依存性を考慮した自動車ボディ電着塗装の高精度シミュレーション

著者：大西 有希、志村 彩夏、天谷 賢治 (東京工業大学)

題目：第一原理経路積分分子動力学法による面心立方金属中の水素の存在状態の解析

著者：君塚 肇 (大阪大学)、尾方 成信 (大阪大学、京都大学)

JSCES スカラーシップアワード (2名)

新宅 勇一 (筑波大学)

山本 剛大 (東北大学)

JSCES 学生サマーキャンプ 2017

2017年9月23日・24日

クラブセントビレッヂ(山梨県南都留郡富士河口湖町船津 1636-1)

【JSCES 夏季学生講演会 2017 優秀講演賞】(2件)

今井 啓太 (中央大学)

インパルスの初期波形の違いがインパルス応答と可聴化へ及ぼす影響の検証

原澤 直人 (筑波大学)

支柱形状に不確かさを有する立方格子セル構造体の座屈解析

- (1) HQC 講習会「シミュレーションの品質保証講習会～工学シミュレーションの標準手順の実装と記録作成の課題～」

日 程：2017年5月11日(木)
会 場：芝浦工業大学 豊洲キャンパス 交流棟5階501教室
世話人：越塚 誠一（東京大学、HQC (High Quality Computing) 研究分科会・副主査)
講 師：吉田 有一郎（東芝インフォメーションシステムズ株式会社）、長谷川 浩志（芝浦工業大学）

- (2) サマースクール 「有限要素法による流れ解析の基礎と応用」

日 程：2017年8月7日(月)～9日(水)
会 場：日本大学理工学部1号館CSTホール
世話人：檜山 和男（中央大学）
講 師：Thomas Hughes（テキサス大学）、Tayfun Tezduyar（ライス大学）、滝沢 研二（早稲田大学）、藤間 昌一（茨城大学）、田中 聖三（筑波大学）、檜山 和男（中央大学）、長谷部 寛（日本大学）、野村 卓史（日本大学）、渡邊 浩志（エムエスシーソフトウェア株式会社）、澤田 有弘（産業技術総合研究所）、加藤 千幸（東京大学）、大島 まり（東京大学）

- (3) オータムスクール 2017 in 大阪 「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践（アドバンストコース付き）」

日 程：2017年10月4日(水)～10月6日(金)
会 場：大阪大学 接合科学研究所 荒田記念館
世話人：山川 優樹（東北大学）、堤 成一郎（大阪大学）
講 師：寺田 賢二郎（東北大学）、石井 建樹（木更津工業高等専門学校）、車谷 麻緒（茨城大学）、齋木 功（東北大学）、松井 和己（横浜国立大学）、山川 優樹（東北大学）

- (4) ウィンタースクール「トポロジー最適化の基礎～積層造形によるモノづくりへの応用～」

日 程：2018年1月30日(火)
会 場：中央大学後楽園キャンパス 2号館 2階 2221教室
講 師：加藤 準治（東北大学）、竹澤 晃弘（広島大学）

- (5) 講習会「混合法によるノードレス有限要素法の実際」

日 程：2017年12月7日(木)
会 場：東京大学 本郷キャンパス 工学部3号館3階33号講義室
世話人：山村 和人（新日鐵住金株式会社）
講 師：山田 貴博（横浜国立大学）、菊地 脛（数値解析開発株式会社）、風間 悦夫（長野工業高等専門学校）

【第1号議案】
(別紙4)

2017年度まで学会理事会の主導による「企画型研究会」と広く会員から設置申請を募り2014年度に制定された研究会規約に則り運営される「公募型研究会」とが設置されていたが、「企画型研究会」である、「S&V (Simulation & Visualization) 研究会」と「ものづくりのための計算工学研究会」の2つは、改めて「公募型研究会」として設置された。これに伴い、企画型研究会は廃止し、来年度以降は理事会主導であっても、公募型研究会として設置されることとなった。

2017年度は移行期として「企画型研究会」として「S&V (Simulation & Visualization) 研究会」と「ものづくりのための計算工学研究会」を行ってきた。また「公募型研究会」として「High Quality Computing (HQC) 研究会」、「PSE (問題解決環境) 研究会」、「多元災害シミュレーション研究会」、「不確かさのモデリング・シミュレーション研究会」、「ベンチマークデータ共有研究会」、「計算工学教育に関する研究会」、「自動車構造モデルベース開発研究会」の7つの研究会が活動を行ってきた。このうち、「計算工学教育に関する研究会」は活動を完了する。その他の公募型研究会は規約に基づき設置期間は1期2年間とされ2016年度に設置された研究会は完了するが、すべての研究会から継続申請され、活動を継続することとなった。

【企画型研究会】

(1) ものづくりのための計算工学研究会

年度途中で、企画型研究会(理事会主導型)から公募型研究会(調査研究会)の位置付け変更もあり、当初想定 of 活動(ものづくりに関わる計算工学とその周辺技術から計測等、二つほど選んで、研究会を開催)が、計画実施には到らなかった。次年度以降、主査等、体制の変更も含めた検討が必要と考える。

(2) S&V (Simulation & Visualization) 研究会

計算工学の技術者、研究者、学生を対象として、新しいシミュレーション技術、ビジュアライゼーション技術、およびその周辺技術の最新の研究成果や技術について議論を行うことで、会員相互の技術力や知識の向上について検討した。次年度から公募型研究会として活動を継続する。

【公募型研究会】

(1) High Quality Computing (HQC) 研究会

主 査：白鳥正樹(横浜国大)

副主査：越塚誠一(東大)、高野直樹(慶応大)、山田貴博(横浜国大)

幹 事：吉田有一郎(東芝インフォメーションシステムズ(株))、中村均(伊藤忠テクノソリューションズ(株))、長谷川浩志(芝浦工大)、松井和己(横浜国大)

2017年度は2回(もう1回予定していたが台風のため中止になった)の研究会を実施し、工学シミュレーションの品質等に関する最新の情報を紹介した。さらに、日本計算工学会員および一般向けに講習会を実施した。次回会合の計画や標準改訂の文案検討のため、4回の幹事会を開催した。

① 第1回会合：2017年6月29日、会場東京大学工学部8号館

- ASME V&V Conference 報告(山田貴博(横浜国立大学))
- 数値解析を用いた光ファイバーによる温度・ひずみ計測器の検証と妥当性確認について(原田隆様(富士テクニカルリサーチ))
- HQC001 改定案の審議及びシミュレーションの品質保証講習会の報告(吉田有一郎(東芝インフォメーションシステムズ))

- ② 第2回会合：2018年3月6日、会場東京大学工学部8号館
- 車両開発の拡大を背景とした開発改革の取り組みについて(坪内淳志(本田技術研究所))
 - 粒子法におけるV&VのGCIとタグチメソッドの適用(油橋信宏(丸山製作所))
 - 地域連携によるデジタルエンジニアリングの活用(土村将範(熊本県産業技術センター))
 - HQC001第3版の発行と会誌でのHQC研究会紹介(吉田有一郎(東芝インフォメーションシステムズ))
- ③ 講習会「シミュレーションの品質保証講習会～工学シミュレーションの標準手順の実装と記録作成の課題～」：2017年7月5日、会場芝浦工業大学豊洲キャンパス
- 工学シミュレーションの標準手順(HQC002)の説明
 - 記録作成法の課題：シミュレーションの仕様作成の課題
 - 工学シミュレーションの標準手順(HQC002)の実装方法の説明

(2) PSE(問題解決環境)研究会

幹事：主査：川田 重夫(宇都宮大学)

副主査：日置 慎治((帝塚山大学)、宮原 豊(富士通株式会社、庶務幹事)

幹事：樫山 和男(中央大学)、門岡 良昌(富士通株式会社)、鈴木 克幸(東京大学)、寺元 貴幸(津山工業高等専門学校)、丹羽 量久(長崎大学)、早勢 欣和(富山高等専門学校：ホームページ担当)、藤崎 正英(富士通株式会社)、保志 克則(構造計画研究所)、前田 太陽(埼玉工業大学)、松本 正己(米子工業高等専門学校、庶務幹事)、真鍋 保彦(沼津工業高等専門学校、庶務幹事)、宮地 英生(東京都市大学、庶務幹事)

委員：宇佐見 仁英(元 玉川大学)、梅谷 征雄(元 静岡大学)、田中 義一(明星大学)

第22回計算工学会講演会においてオーガナイズドセッション「PSE/計算科学・教育」を企画した。日本計算工学会論文集にPSE(問題解決環境)特集号を編集しPSEのレビュー論文と最近の研究論文を出版した。ホームページとPSEメーリングリストによる広報に加えて、以下のような記事他により広報を行っている。“Computer Assisted Parallel program generation”, Chapter 398 (2018), Encyclopedia of Information Science and Technology, 4th Edition, IGI Global, Hershey, PA, USA, DOI: 10.4018/978-1-5225-2255-3.ch398. また、iacm expressions, vol. 42, p. 23に、上記の第20回国際PSEワークショップの開催報告記事が掲載予定である。

- ① 第20回国際PSEワークショップ：2017年8月29日(火)～31日(木)、会場Fujitsu Services, Baker Street Office (London)
- 基調講演” Challenges for numerical simulations in relativistic laser-plasma physics and applications: from atto second pulse generation to laser fusion.” (Zheng-Ming Sheng (University of Strathclyde), Shanghai Jiao Tong (University Shanghai))
 - その他招待講演1件、一般講演5件。植物工場に関連するPSE、教育支援PSE、可視化関連PSE、PSE研究のレビュー講演、発想支援PSE
- ② 2018年第1回PSE研究会：2018年3月16日、会場富士通汐留本社
- 植物工場関連PSE研究の進捗報告、教育支援PSEなどの研究成果およびクラウド技術の紹介

(3) 多元災害シミュレーション研究会

幹事：主査：寺田 賢二郎(東北大学)

副主査：桜庭 雅明(日本工営)、浅井 光輝(九州大学)

【第1号議案】
(別紙4)

幹事：秋山 伸一（伊藤忠テクノソリューションズ）、野島 和也（日本工営）、高瀬 慎介（八戸工業大学）、車谷 麻緒（茨城大学）

2017年度は2回の研究会を開催し、第22回計算工学講演会では、他の研究グループとの共催でOSを開き、研究会以外の場でも議論を深めている。また、日本計算工学論文誌の論文誌において特集号の企画も行った。日本計算工学会論文誌において「多元災害シミュレーション」特集号を企画した。特集号として10編の論文が掲載された。

第6回研究会：2017年9月20日、会場京都大学学術情報メディアセンター（京都大学学術情報メディアセンターセミナーとのジョイント開催）

- 今期の研究会の活動方針についての意見交換
- 学術情報メディアセンター内にあるスーパーコンピュータの見学
- セミナー1（浅井光輝（九州大学））
- セミナー2（車谷麻緒（茨城大学））
- セミナー3（高瀬慎介（八戸工業大学））

② 第7回研究会：2017年11月30日、会場 JSOL

- 汎用 CAE ソフトを用いた災害シミュレーションの現状と課題（猿渡智治（JSOL））
- 建設業界の災害シミュレーションへの取り組み事例（坂敏秀（鹿島建設技術研究所））
- 実際の砂防災害調査についてとその災害シミュレーション（堀口俊行（防衛大学校））

(4) 不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会

主査：高野 直樹（慶應義塾大）

副主査：松田 哲也（筑波大）

幹事：小坂部 和也（みずほ情報総研）、平島 禎（JSOL）、山本 真哉（清水建設）、近藤晶子（Caemarketing）、永井 学志（岐阜大）、田原 大輔（龍谷大）

2017年度から、材料、熱処理、3D造形、土木の四つのグループにグループリーダー（GL）をおき、GLの下で会合を企画している。また、シミュレーションの品質保証に関連する話題として、画像認識・機械学習・人工知能に関する会合も開催した。年度後半では、講演者以外の参加者の発言機会を増やすべく、発表論文を配布してショットガンプレゼンを行い、委員間の情報交流の活発化をはかっている。名古屋での第23回計算工学講演会でもOSを企画した。

① 第1回研究会：2017年5月16日、会場慶應義塾大学理工学部（矢上キャンパス）

- 金属3Dプリンターの最新情報と不確かさ及び今後の展開（高関二三男（株式会社J・3D））
- 金属粉末焼結型3Dプリンティングによるセル構造体の解析－造形プロセスパラメータや造形不良の影響－（高野直樹（慶應義塾大学）、瀧澤英男（日本工業大学））

② 第2回研究会：2017年7月4日、会場慶應義塾大学理工学部（矢上キャンパス）

- 画像認識における人工知能研究の現状と実利用（青木義満（慶應義塾大学））
- 流体力学と機械学習の融合に向けて（深淵康二（慶應義塾大学））
- 可視化の数理～注目と誘目のサイエンス～（藤代一成（慶應義塾大学））

③ 第3回研究会：2017年9月20日、会場宇宙航空研究開発機構（JAXA）調布航空宇宙センター飛行場分室

- マルチフィジックス・マルチスケールを考慮したFRPシミュレーションへの取り組み紹介（西正人（JSOL））
- 統計的手法を用いた分岐現象抑制に基づく応答曲面精度改善手法の自動車前面衝突解

析への適用 (岡村昌浩 (JSOL))

- マルチスケール解析のバリデーションと不確かさの導入事例の講演 (松田哲也 (筑波大学))
 - 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 構造・複合材技術研究ユニットの紹介および見学会
- ④ 第4回研究会：2017年11月29日、会場清水建設技術研究所
- 不確実性の高い自然災害シミュレーションの使い道～ユーザ参加型VRによるバーチャル避難訓練～ (浅井光輝氏 (九州大学))
 - 放射性廃棄物の地層処分評価における熱-水-力学-化学連成解析に関する動向と検証 (小坂部和也 (みずほ情報総研(株)))
 - 不確実性を考慮した落石シミュレーション (森口周二 (東北大学))
 - 放射線のモンテカルロ計算における変動要因 (小迫和明 (清水建設))

(5) ベンチマークデータ共有研究会

主 査：奥田 洋司 (東京大学)

副主査：白崎 実 (横浜国立大学)、大西 有希 (東京工業大学)、鈴木 正昭 (東京大学)、松田 哲也 (筑波大学)、松本 昌昭 (株式会社三菱総合研究所)

幹 事：奥山 義弘 (株式会社HPCテック)

幹事・HP担当：橋本 学 (東京大学)

2017年度は、以下の活動を行った。(1) 第22回計算工学講演会において、オープンソース・ソフトウェア (OSS) に関するオーガナイズドセッション「OSSエンジニアリングの最新動向」(全8件の講演発表)を企画し、本研究会の今後の活動展開について検討した。(2) 本研究会のリポジトリのデータクオリティを評価し、データの充実化に向けた検討を行った。(3) 昨年度に引き続き、FrontISTR研究会 (<http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp/FrontISTR/>) と協同して、以下のようにデータ提供の広報活動を行った。会場はすべて東京大学本郷キャンパス

- ① 第35回FrontISTRの並列計算ハンズオン～精度検証から並列性能評価まで～：2017年4月28日
- ② 第36回計算事例/Ver.4.6の新機能/Ver.5.0の公開に向けた取り組み：2017年6月9日
- ③ 第37回計算事例/FrontISTRの線形ソルバー/SoCボードへの移植：2017年7月10日
- ④ 第38回DEXCS-WinXistrハンズオンセミナー：2017年8月21日
- ⑤ 第39回FrontISTRのプログラム開発・実行環境構築に関する二、三の話題：2017年11月10日
- ⑥ 第40回FrontISTR Ver.5.0プログラムの公開に向けて：2017年12月22日
- ⑦ 第41回FrontISTRを用いたデータ活用技術の紹介：2018年2月5日
- ⑧ 第42回FrontISTRの最新活用事例：2018年3月16日

(6) 計算工学教育に関する研究会

主 査：菊地 彪 (数値解析開発株)

副主査：長嶋 利夫 (上智大学)

幹 事：渡邊 浩志 (エムエスシーソフトウェア株式会社)

委 員：長谷川 浩志 (芝浦工業大学)、小林 卓哉 (メカニカルデザイン株式会社)

企業における技術者の育成という視点から、大学から企業への一貫性・継続性も含めて、計算工学教育

【第1号議案】
(別紙4)

における、あるべきカリキュラムを検討し提示する。対象分野は、当面は「計算力学」の分野とする。
具体的には

- 1) 計算力学は、理論、試験・実験、計算(シミュレーション)という問題解決のための三位一体の重要な一環であること、および関連工学の総合化を必要とするということを、カリキュラムを通じて具現化する。
- 2) 企業において問題解決型で目的を達成できるような技術者の育成のために、大学から企業の一貫性を念頭にして、主に大学における計算力学教育について検討し、必要に応じて基礎工学の再編も織り込む。

研究成果は、大学から企業までの一貫した計算力学分野の教育カリキュラムの提示である。

- ① 第1回研究会：2017年9月1日、会場エムエスシーソフトウェア
 - 基本方針の確認と意見交換および2017年度の活動計画について議論を行った。
- ② 第2回研究会：2017年12月11日、会場エムエスシーソフトウェア
 - 菊地主査作成の資料に基づき意見交換、議論を行った。第23回計算工学講演会でOSを企画し、活動内容を報告する。

(7) 自動車構造モデルベース開発研究会

主査：岡澤 重信(山梨大学)

副主査：藤川 智士(マツダ)、副主査：加藤 準治(東北大学/名古屋大学)

幹事：大西 有希(東京工業大学)、河口 篤志(豊田中央研究所)

2017年度は、自動車開発・計算工学・数学などに関わる研究者・技術者・学生を対象として、自動車構造モデルベース開発に関する最新の研究成果や周辺技術について議論するための研究発表会を開催し、問題発見や問題解決のための意見・情報交換や技術交流を行った。

- ① 第3回研究会：2017年11月27日、会場東京工業大学大岡山キャンパス
 - マルチマテリアル・積層造形技術を考慮したトポロジー最適設計の最新動向(加藤準治(東北大学))
 - モデルベースデザインを活用したフリーピストン発電システム制御の構築(守屋一成(豊田中央研究所))
- ② 第4回研究会：2018年3月23日、東京工業大学大岡山キャンパス
 - 日本のモノづくりのイノベーション力とCAEに期待するその更なる可能性(于強(横浜国立大学))
 - 機能からのもの作りの可能性(重松浩一(サイバネットシステム))
 - 自動車の振動騒音性能モデルベース開発に関する取組(石濱正男(石濱技研))

2017年度

決算報告書

自 2017年4月 1日

至 2018年3月31日

税務監査報告書

貸借対照表

損益計算書

財産目録

【参考資料】

会員数・決算経緯グラフ

一般社団法人 日本計算工学会
代表理事 寺田 賢二郎様

2017年度 税務監査報告書

2017年度の会計につき以下の通りご報告いたします。

年 度：第8期、自2017年(平成29年)4月1日 至2018年(平成30年)3月31日

実施日：2018年(平成30年)4月26日(木)

方 法：下期決算収支明細報告書、試算表、二期比較貸借対照表及び損益計算書、部門別総括表の資料を基に前年対比の推移も含め検証を行いました。

意 見：

1. 前年対比の特徴

当期は会費、講演会、講習会、研究会、国際会議いずれも前年対比で増加しており全体で880万円の増収となりました。

経費は講演会関連が約40万円減少したものの、講習会、研究会、国際会議にまつわる経費は収入増加に連動して増加しています。

当期純利益は約700万円で、学会の活発な活動結果と見てとれます。

なお、収益事業(論文集販売、広告掲載料、機器展示、学会標準販売にまつわる収入)に関する収入は180万円、経費は196万円、差引16万円の当期純損失と計算されました。

また、消費税課税売上高は539万円であるため免税事業者のままです。

2. 仮受金、仮払金について

仮受金、仮払金のうちにはIWACOMとWCCMの予算資金が計上されています。

3. その他

領収書や請求書などの原始資料が月別かつ日毎に整理されており、日々の金銭による収支は複式簿記により適切に処理されています。

2018年(平成30年)5月2日(水)
税理士法人 芝田会計事務所
税理士 飯塚 哲行
税理士補助 佐竹 美穂
東京都世田谷区駒沢1丁目17番17号
真成ビル8F
TEL03-3412-9515



2017年度 貸借対照表

一般社団法人 日本計算工学会

2018年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
【流動資産】	50,314,572	43,625,378	6,689,194
現金預金	47,236,672	43,408,946	3,827,726
前渡金	-	-	-
立替金	-	-	-
未収入金	140,000	16,000	124,000
仮払金	1,500,000	200,432	1,299,568
前払費用	1,437,900		
資産の部計	50,314,572	43,625,378	6,689,194
II 負債の部			
【流動負債】	7,350,644	7,809,172	-458,528
未払金	-	-	-
前受金	4,152,000	4,254,000	-102,000
仮受金	3,089,584	3,457,912	-368,328
預り金	39,060	27,260	11,800
従業員預り金・未払法人税	70,000	70,000	-
負債の部計	7,350,644	7,809,172	-458,528
III 純資産の部			
【繰越金】	42,963,928	35,816,206	7,147,722
繰越剰余金	42,963,928	35,816,206	7,147,722
(うち当期純利益)	7,147,722	1,850,384	5,297,338
純資産の部計	42,963,928	35,816,206	7,147,722
負債及び純資産の部計	50,314,572	43,625,378	6,689,194

2017年度 損益計算書

一般社団法人 日本計算工学会

自 2017年4月 1日
至 2018年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
【売 上 高】	36,047,280	27,217,983	8,829,297
会費収入	13,793,000	13,298,000	495,000
論文掲載料	990,000	600,000	390,000
会誌広告料	1,836,000	1,663,200	172,800
講演会開催費	9,141,000	7,322,837	1,818,163
寄付金(川井基金)	-	-	-
寄付金(庄子基金)	300,000	-	300,000
寄付金(フェロー基金)	-	-	-
寄付金(JSCESスカラースhip基金)	-	-	-
講習会費	6,252,800	3,527,446	2,725,354
研究会費	1,380,000	747,000	633,000
その他売上高	455,480	59,500	395,980
国際会議開催費(GJ-4)	1,899,000	-	-
売上総利益	36,047,280	27,217,983	8,829,297
【販売費及び一般管理費】	28,865,346	25,321,234	3,544,112
講演会開催費	5,315,778	5,735,767	-419,989
講習会費	4,160,571	1,589,349	2,571,222
研究会費	428,638	75,456	353,182
会誌発行費	3,712,883	3,756,650	-43,767
論文発行費	173,200	121,734	51,466
IACM関係費	1,030,624	1,038,394	-7,770
ホームページ管理費	442,800	1,598,400	-1,155,600
学協会関係費	90,269	290,170	-199,901
会議費	142,600	64,750	77,850
会員システム管理費	388,800	388,800	-
総会関係費	399,187	326,252	72,935
特別講演費	352,770	-	352,770
学会表彰費	189,481	214,253	-24,772
国際会議開催費(GJ-4)	1,877,828	-	1,877,828
若手育成費(JSCESスカラースhip [®] アワード)	200,000	200,000	-
通信費	313,081	330,902	-17,821
印刷費	435,678	513,714	-78,036
人件費	5,524,491	5,100,768	423,723
法定福利費	605,139	692,232	-87,093
通勤交通費	335,357	328,050	7,307
什器・備品費	43,945	239,860	-195,915
光熱費	164,261	162,204	2,057
消耗品費	248,712	181,035	67,677
事務所賃料	1,555,200	1,684,800	-129,600
保険料(火災保険)	-	17,000	-17,000
選挙費	195,495	970	194,525
未納会費処理損	-	-	-
租税公課	200	200	-
雑費	160,358	139,476	20,882
学会運営費	378,000	530,048	-152,048
営業利益	7,181,934	1,896,749	5,285,185
【営業外収益】	35,846	23,726	12,120
受取利息	280	502	-222
雑収入	35,566	23,224	12,342
経常利益	7,217,780	1,920,475	5,297,305
税引前当期純利益	7,217,780	1,920,475	5,297,305
法人税・住民税・事業税	70,058	70,091	-33
当期純利益	7,147,722	1,850,384	5,297,338

2017年度 財産目録

一般社団法人 日本計算工学会

2018年3月31日現在

I. 資産

(単位:円)

費 目	細 目	金 額
現金 預金	事務局	25,790
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1109931	2,239,225
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1109958	855,255
	三菱東京UFJ銀行本郷支店普通預金No.0052024	1,126,711
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1115419	924,769
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1117004	17,542,712
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1172382	500,000
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1174520	370,097
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1212813	0
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1224161	1,000,000
	ゆうちょ銀行振替口座No.00170-1-662808	21,644,914
	ゆうちょ銀行通常郵便貯金No.10120-76374261	1,007,199
	合計	47,236,672

費 目	細 目			金 額
未収入金	特別会員	B社	1社	100,000
		個人会員	正会員	5名
		合計		140,000

※2017年度分4月中に全て納付済

費 目	細 目		金 額
仮払金	IWACOM		500,000
	WCCM		1,000,000
	合計		1,500,000

費 目	細 目		金 額
前払費用	第23回計算工学講演会:会場費		1,437,900
	合計		1,437,900

II. 負債

費 目	細 目			金 額
前受金	特別会員	B級	2社	200,000
		C級	13社	650,000
	個人会員	正会員フェロー	7名	84,000
		正会員	380名	3,036,000
		シニア会員	35名	140,000
		学生会員	21名	42,000
	合計		4,152,000	

※内5名:学→正 移行者含む(4,000)、
2019・2020前受金含む

費 目	細 目		金 額
仮受金	COMPSAFE2014余剰金		1,589,584
	IWACOM		500,000
	WCCM		1,000,000
	合計		3,089,584

費 目	細 目		金 額
預り金	給料天引き源泉所得税1~3月分		39,060
	合計		39,060

費 目	細 目		金 額
未払法人税等	2017年度分法人住民税		70,000
	合計		70,000

2017年度 会員推移

一般社団法人 日本計算工学会

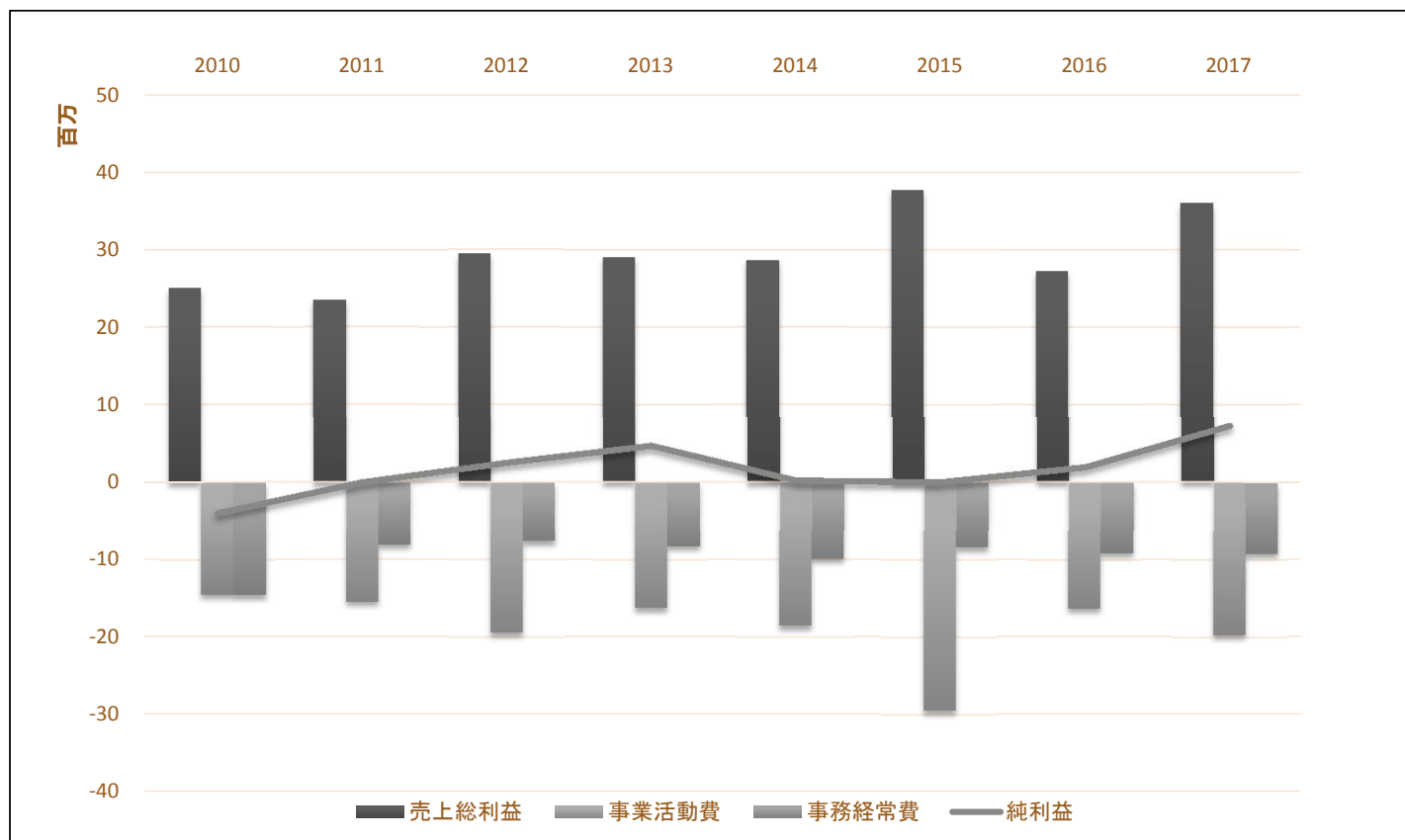
2018年3月31日現在

	特別会員			正会員 (フェロー含む)	シニア会員	学生会員	研究室会員
	A級	B級	C級				
2010年度	10	11	40	832	12	63	53 (9件)
2011年度	10	10	49	842	14	50	64 (11件)
2012年度	10	9	58	853	18	49	68 (11件)
2013年度	11	9	61	861	31	48	77 (13件)
2014年度	11	9	60	875	34	49	77 (14件)
2015年度	11	9	60	871	43	46	85 (13件)
2016年度	10	9	63	853	41	57	84 (16件)
2017年度	11	9	63	859	42	43	111 (17件)

2017年度 決算経緯グラフ

一般社団法人 日本計算工学会

2018年3月31日現在



【第3号議案】

2017年度

監 査 報 告 書

自 2017年4月 1日

至 2018年3月31日

監査報告

一般社団法人日本計算工学会2017年4月1日から2018年3月31日にいたる第8期事業年度の収支明細と現預金残高について、書類に基づき会計監査を行った結果、適正に会計処理がされており、別紙活動計算書および現預金残高は事実と相違ないことを確認いたしました。全て正しく管理されていることを証します。

また、同年度の理事会に出席し業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り適正に行われていたことを確認いたしました。

一般社団法人日本計算工学会の監査結果を以下の通り、監事として署名・押印して報告いたします。

2018年 5月 8日

監 事 佐々木直哉 


監 事 越塚誠一 

報告書

前記のとおりご報告申し上げます。

2018年 5月 8日

一般社団法人 日本計算工学会

会 長 寺田賢二郎 

2018・2019年度

役員選任の件（案）

理事・監事候補者名簿

【参考資料】

- 1.選挙結果
- 2.代表会員名簿

2018・2019年度 役員選任の件(案)

【 理事・監事候補者名簿 】

		[勤務先/学校名]	[所属部署]	[職名]
会 長(理事)	山田 貴博	横浜国立大学	大学院 環境情報研究院	教授
副会長(理事)	弓削 康平	成蹊大学	理工学部 システムデザイン学科 計算力学研究室	教授
副会長(理事)	藤崎 正英	富士通株式会社	テクニカルコンピュータソリューション事業本部(兼)経営戦略室	エグゼクティブアーキテクト
理 事	磯部 大吾郎	筑波大学	システム情報系 構造エネルギー工学域	教授
理 事	岡澤 重信	山梨大学	大学院総合研究部 工学域 機械工学系	教授
理 事	加藤 準治	名古屋大学	大学院工学研究科 土木工学専攻	教授
理 事	櫻井 英行	清水建設株式会社	技術研究所 社会システム技術センター 先進解析グループ	グループ長
理 事	桜庭 雅明	日本工営株式会社	中央研究所 総合技術開発第1部	部長代理
理 事	塩谷 隆二	東洋大学	総合情報学部	教授
理 事	高垣 昌和	公益財団法人鉄道総合技術研究所	鉄道力学研究部計算力学	研究室長
理 事	長嶋 利夫	上智大学	理工学部 機能創造理工学科	教授
理 事	永野 勝尋	みずほ情報総研株式会社	サイエンスソリューション部	主席コンサルタント
理 事	西脇 眞二	京都大学大学院	工学研究科 機械理工学専攻	教授
理 事	萩原 世也	佐賀大学	工学系研究科・機械システム工学専攻	教授
理 事	長谷川 浩志	芝浦工業大学	システム理工学部 機械制御システム学科	教授
理 事	藤川 智士	マツダ株式会社	パワートレイン開発本部	主査
理 事	松本 純一	国立研究開発法人産業技術総合研究所	機能材料コンピュータシミュレーションデザイン研究センター	研究チーム長
理 事	宮地 英生	東京都市大学	メディア情報学部 情報システム科	教授
理 事	山崎 伯公	新日鐵住金株式会社	設備・保全技術センター 機械技術部	室長
理 事	渡邊 浩志	エムエスシーソフトウェア株式会社	テクニカルサポート部	シニアアプリケーションエンジニア
監 事	寺田 賢二郎	東北大学	災害科学国際研究所	教授
監 事	梅津 康義	株式会社JSOL	エンジニアリングビジネス事業部	シニアコンサルタント

【2018-2019年度 代表会員・理事役員選挙結果】

【投票結果】

◆代表会員選挙

◎有効投票数	453
信認票	446
否認票	7

◆理事・役員選挙

◎有効投票数	453
信認票	444
否認票	9

(特別会員:83、正会員:878 発送計961名 *1/5で有効 193以上)

2018年3月15日
選挙管理委員会により、投票結果の判定を行い、有効に成立と承認。

選挙管理委員長

榎山和男 

2018・2019年度

【 代表会員名簿 】

	氏名	所属		氏名	所属		氏名	所属
1	秋葉 博	東京大学地震研究所	39	越村 俊一	東北大学	77	西脇 眞二	京都大学
2	浅井 光輝	九州大学	40	小林 卓哉	メカニカルデザイン	78	野島 和也	日本工営
3	畔上 秀幸	名古屋大学	41	近藤 典夫	日本大学	79	野村 卓史	日本大学
4	荒井 政大	名古屋大学	42	近藤 晶子	Caemarketing	80	萩原 世也	佐賀大学
5	石井 恵三	くいんと	43	酒井 幹夫	東京大学	81	萩原 一郎	明治大学
6	石井 建樹	木更津工業高等専門学校	44	坂倉 耕太	日本電気	82	羽間 収	伊藤忠テクノソリューションズ
7	石田 智裕	サイバネットシステム	45	阪田 升	環境シミュレーション	83	橋本 学	東京大学
8	石田 雅利	鹿島建設	46	櫻井 英行	清水建設	84	長谷川 浩志	芝浦工業大学
9	磯部 大吾郎	筑波大学	47	桜庭 雅明	日本工営	85	早勢 欣和	富山高等専門学校
10	市村 強	東京大学地震研究所	48	佐々木 直哉	日立製作所	86	針谷 昌幸	日立製作所
11	井上 裕嗣	東京工業大学	49	沢田 龍作	サワダ技研	87	姫野 龍太郎	理化学研究所
12	牛島 省	京都大学	50	澤田 有弘	産業技術総合研究所	88	平島 禎	JSOL
13	梅津 康義	JSOL	51	塩見 忠彦	マインド	89	平林 智子	豊田中央研究所
14	生出 佳	メカニカルデザイン	52	塩谷 隆二	東洋大学	90	廣瀬 壮一	東京工業大学
15	大崎 純	京都大学	53	下川辺 隆史	東京大学	91	藤川 智士	マツダ
16	大富 浩一	東京大学	54	白崎 実	横浜国立大学	92	藤崎 正英	富士通
17	大西 有三	京都大学	55	白山 晋	東京大学	93	藤澤 智光	プロメテック・ソフトウェア
18	大西 有希	東京工業大学	56	鈴木 克幸	東京大学	94	別府 万寿博	防衛大学校
19	大林 茂	東北大学	57	高垣 昌和	鉄道総合技術研究所	95	前田 朝樹	IHI検査計測
20	岡澤 重信	山梨大学	58	高木 敏行	東北大学	96	松井 和己	横浜国立大学
21	岡田 裕	東京理科大学	59	高瀬 慎介	八戸工業大学	97	松田 哲也	筑波大学
22	荻野 正雄	名古屋大学	60	高野 直樹	慶応義塾大学	98	松本 正己	米子工業高等専門学校
23	奥田 洋司	東京大学	61	高橋 由紀夫	電力中央研究所	99	松本 純一	産業技術総合研究所
24	奥田 基	高度情報科学技術研究機構	62	高橋 昭如	東京理科大学	100	宮地 英生	東京都市大学
25	奥村 大	名古屋大学	63	田上 大助	九州大学	101	本山 恵一	米国ミシシッピ州立大学
26	尾崎 伸吾	横浜国立大学	64	竹内 則雄	法政大学	102	森口 周二	東北大学
27	加藤 準治	名古屋大学	65	只野 裕一	佐賀大学	103	山崎 伯公	新日鐵住金
28	河合 浩志	東洋大学	66	田中 聖三	筑波大学	104	山下 拓三	防災科学技術研究所
29	川口 健一	東京大学	67	月野 誠	くいんと	105	山田 貴博	横浜国立大学
30	川田 重夫	宇都宮大学	68	坪田 健一	千葉大学	106	山村 和人	新日鐵住金
31	菊地 鷹	数値解析開発	69	手塚 明	産業技術総合研究所	107	山本 誠	東京理科大学
32	北 栄輔	名古屋大学	70	寺田 賢二郎	東北大学	108	山本 晃司	サイバネットシステム
33	北村 充	広島大学	71	寺元 貴幸	津山工業高等専門学校	109	弓削 康平	成蹊大学
34	北村 隆行	京都大学	72	永井 学志	岐阜大学	110	油橋 信宏	丸山製作所
35	清末 考範	新日鐵住金	73	中島 研吾	東京大学情報基盤センター	111	吉村 忍	東京大学
36	車谷 麻緒	茨城大学	74	長嶋 利夫	上智大学	112	和田 義孝	近畿大学
37	紅露 一寛	新潟大学	75	永野 勝尋	みずほ情報総研	113	渡邊 浩志	エムエスシーソフトウェア
38	越塚 誠一	東京大学	76	西村 直志	京都大学	114	渡邊 大	芝浦工業大学

【第5号議案】

2018年度

事業計画（案）

自 2018年4月 1日

至 2019年3月31日

2018年度事業計画書（案）

活動方針

日本計算工学会は、計算工学・計算力学の発展・進展を希求する学術団体として、1995年の設立から23年を迎え、成熟期にさしかかっていると云える。また、2010年度に行った法人化を契機に、諸規則の見直しと整備を進め、透明性の高い運営に努めてきた。

本会の会員数については、学術団体に対する社会情勢が厳しい中でも正会員、特別会員とも微増を続けている。本会の主要行事である計算工学講演会においては、参加者数が堅調に推移していることとともに、さまざまな形での企業からの支援が得られており、学会の活動が社会から評価、期待されているものとする。

一方、計算工学・計算力学は適用分野や社会的な要求の拡大により、従来の技術の発展に加え、これまでとは異なる概念や技術の導入が求められている。このような状況を踏まえ、計算工学分野のさらなる発展の礎を築くための活動方針として、

『活動の多様化により社会の期待に応えられる学会を目指し、次世代を担う人材育成に尽力する。』を掲げる。2018年度は、この方針のもとに以下の活動を推進する。

(1) 社会の期待に応えられる学会の推進

短期的な産官学の連携に留まらず、長期的な視野に立脚した計算工学の発展に貢献する活動の推進により、豊かな社会の実現に資する学会を目指す。基盤的な活動として計算工学講演会の開催、会誌・論文集の発行を着実に実施する。研究会の積極的な活動により、社会の要請に対応した研究を促進する。また、研究会の成果を講習会等により社会に還元することを目指す。

(2) 次世代人材を育成するための多様な活動の推進

学会の持続的発展を実現するための次世代人材の育成に資する多様な活動を推進する。具体的には、計算工学講演会、研究会、サマーキャンプ、講習会などの事業への参加を促すとともに、表彰事業を通じて計算工学の学術研究および技術開発を奨励する。本会主催の国際会議の開催やIACMが主催する国際会議・セミナーの広報により、国際的な研究交流の場への会員の積極的な参加を促す。さらに日本応用数理学会、シミュレーション学会との交流、連携を会員レベルでも進められるよう、共催行事などの企画を検討する。

(3) 健全な財政運営

消費税の増税や物価の上昇など経済的環境は厳しさを増している。また、学会活動の活性化により事務作業およびそのための人件費も増加している。このような状況を踏まえ、健全な財政運営を維持すべく、運営の合理化とともに、会員・広報事業の活性化により会員数の更なる増員を目指す。

1. 定時社員総会の開催

2018年度定時社員総会を、2018年5月22日に、東京大学伊藤国際学術研究センターにて開催する。

2. 理事会の開催

2018年度の理事会は、計7回の開催を予定している。

3. 規程類の点検

これまでに制定された規程類を点検し、不整合や不備等のある規程類の改訂を行う。

4. 表彰

学会賞などの表彰制度の運用については、表彰委員会にて審査し、2018年度の該当者選考を行う。

5. 計算工学講演会関係

第23回計算工学講演会を、2018年6月6日より6月8日までウインクあいち（愛知県名古屋市）において開催する。30件のOSに対して356件の一般講演が予定されている。これらの講演原稿を収録した計算工学講演会論文集 Vol.23 を発刊する。論文集の配布は、講演会ホームページからのダウンロード形式で行う予定である。講演会においてアイシン・エイ・ダブリュによる特別講演を行い、公設試のCAEの取り組みに関するシンポジウムやランチョンセミナー、学生向け特別企画を行う。さらに日韓ワークショップも併催予定である。また例年通りグラフィクスアワードおよびベストペーパーアワードの表彰も予定している。

6. 講習会・講演会の開催

本学会の活動の成果発信の場として講習会・講演会を定期的に行う。

- (1) 出版活動成果をより広く発信する場として、計算力学レクチャーコースをテキストとした「講習会」を計画する。
- (2) サマースクール「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」を開催する。
- (3) ウィンタースクール「トポロジー最適化の基礎」を開催する。
- (4) HQC 講習会を開催する。
- (5) 計算工学の学術的深化と産業利用の高度化に関する様々なセミナーの開催を検討する。

7. 若手の支援と活性化

- (1) 学生向けセミナーとして「サマーキャンプ」を開催する。
- (2) JSCES スカラーシップアワードの募集・審査を行う。

8. 学会誌の編集と発行

- (1) 学会誌「計算工学」第23巻2号～4号および第24巻1号を発行する。
- (2) 会誌編集会議を各号発行に合わせて実施し、会誌企画と編集作業の進捗を確認する。また、特集記事の公募を試行する。
- (3) 編集委員会内部の役割分担、作業手順に関する検討を継続して実施し、内規等を見直す。
- (4) 広告の募集方法・料金制度等の改定を行う。

9. 論文集の編集と表彰

- (1) インターネットを通じた論文集の編集、発行作業を引き続き行う。
- (2) 論文集の位置づけの明確化を引き続き検討する。また、特集号の企画など投稿数を増やすための方策を検討、実施する。

- (3) 論文部会を開催して、論文賞および論文奨励賞の推薦、審査、審査結果にもとづき、表彰委員会への推薦をおこなう。

10. 研究会および研究分科会の活動

- (1) 研究会規約に基づき研究会・研究分科会の募集を継続する。
- (2) 継続中の研究会の活性化を図る。
- (3) 研究会主催の講習会・ワークショップの開催、会誌特集記事、論文集特集号の充実を促進する。

11. 学会刊行物の企画、刊行

- (1) 準備中の計算力学レクチャーコース3点「固有値解析」、「非線形並列有限要素法」、「ボクセル解析」（いずれも仮題）と学会編集書籍1点「ソフトコンピューティング」の発刊を目指す。
- (2) 既出版の書籍の普及活動を行う。
- (3) 出版事業の活性化を進める。

12. 会員活動

- (1) さらなる会員数の増加を目指す。特に民間企業に所属する正会員の入会促進のための施策を検討する。
- (2) 会員サービスのさらなる向上を目指すとともに、特別会員に対する特典の明確化と周知を行う。
- (3) フェロー会員の公募、選考を行う。
- (4) 名誉会員の推薦を行う。

13. 広報活動

- (1) 組織的なホームページ更新体制の下で、常に新しい情報を会員に届けるよう努める。
- (2) ニュースレターの発信を行う。
- (3) 広報委員会の活動を活発化し、会員へのサービス向上ならびに広く学会活動の周知に務める。
- (4) 学会外の協力機関と連携し相互の利益を高めるための広報活動を行う。
- (5) 英文ホームページをリニューアルする。

14. 国際交流活動

- (1) 英文ホームページの管理を行うとともに、その内容を見直し、充実させることで、本学会の活動を広く海外へ発信する。
- (2) IACM との連携を維持する。
 - ・ IACM EXPRESSIONS への投稿（5月、11月）
 - ・ IACM 関連会議(WCCM など)への協力と会員への広報
 - ・ 他国の IACM 支部および学協会との連携
- (5) 国際会議等を企画・開催・支援する。
 - ・ 本会と COSEIK（韓国）との共催による第8回日韓ワークショップ（2018年6月7日、

名古屋)を開催する。

- ・ COMPSAFE2020 (2020年3月8日～11日、神戸)を企画する。
- ・ IWACOM-IVを企画する。
- ・ WCCM XV & APCOM VIIIの誘致・準備に協力する。

15. 他学協会との連携

- (1) 引き続き関連3学会(日本シミュレーション学会、日本応用数理学会)との交流を行い、共催事業について検討する。
- (2) 「横断型基幹科学技術研究連合会」に参加、活動する。
- (3) 日本学術会議 安全工学シンポジウムの運営に参加する。
- (4) 日本学術会議 理論応用力学講演会の運営に参加する。
- (5) 日本学術会議 計算力学シンポジウムの運営に参加する。

16. 寄付・基金

- (1) 庄子基金：庄子メダルの受賞者用等に充てる。
- (2) 川井基金：川井メダルの受賞者用等に充てる。
- (3) JSCES スカラーシップアワード基金およびフェロー基金：若手育成のためのスカラーシップアワードの受賞者用等に充てる。

17. 技術者倫理

- (1) 技術者倫理を重視し、倫理綱領に沿った学会活動を行う。
- (2) 倫理委員会規程を策定し、倫理綱領の周知・啓発・運用を推進する。

18. 事務局運営

学会活動の活性化、多様化による事務局の業務量増加に対して、適正な労働環境を維持するため事務局の人員を増員する。

19. 健全な財務運営

適切なガバナンスのもと、会の収支・損益、資産面など健全な財務運営の継続に努める。収益事業と非収益事業(会費収入に対する会員向けサービスなど)を明確化し、収益事業に対しては税務申告を行う。

以上

2018年度

事業予算(案)

自 2018年4月 1日

至 2019年3月31日

2018年度 事業予算(案)

【第6号議案】

一般社団法人 日本計算工学会

自:2018年4月1日

至:2019年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

項目	2018年度予算案	備考
会費	13,500,000	2018年度年会費
論文掲載料	600,000	論文掲載料:20件
会誌広告料	1,800,000	会誌の広告掲載料
講演会参加費	7,700,000	第23回講演会開催費等
講習会費	3,300,000	サマーキャンプ、サマースクール、ウィンタースクール、レクチャーコース等
研究会費	700,000	HQC(講習会・学会標準)、PSE、多元災害、不確かさ、ベンチマーク、S&V、ものづくり
その他	95,000	会誌別購入など
雑収入	20,000	学術著作権協会配当など
計	27,715,000	
国際会議積立金取崩	0	
IWACOM積立金取崩	0	
WCCM積立金取崩	0	
川井基金取崩	20,000	川井メダル作成費
庄子基金取崩	50,000	庄子メダル作成費、サマーキャンプ補助金
フェロー基金取崩	0	
JSCESスカラシップアワード基金取崩	200,000	JSCESスカラシップアワード(2017年)副賞
収入計	27,985,000	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	備考
事業活動費	16,750,000	
講演会開催費	6,700,000	第23回講演会開催費
講習会費	1,600,000	サマーキャンプ、サマースクール、ウィンタースクール、レクチャーコース等
研究会費	250,000	HQC(講習会・学会標準通信費)、PSE、多元災害、不確かさ、ベンチマーク、S&V、ものづくり
会誌発行費	3,800,000	会誌印刷費(広告掲載費含む)、発送費、掲載謝礼金(図書カード)
論文発行費	100,000	査読謝礼金(図書カード)、J-stage使用料
IACM関係費	1,100,000	IACM会費、送金手数料
ホームページ管理費	1,000,000	WEB保守費、英文HP、追加ページ等
学協会関係費	80,000	横断型基幹科学技術年會費、日本工学会年會費、安全工学シンポジウム共催費
会議費	150,000	会合費
会員システム管理費	390,000	会員システム管理費
総会関係費	380,000	案内状、会場費、懇親会費、講師謝礼等
特別講演費	0	
国際会議運営費	0	
学会賞表彰費	200,000	総会時表彰(川井メダルと庄子メダルを含む)
通信費	400,000	電話代、フレッツ光代、宅配便代、レターパック代、切手代、年会費請求書発送費
印刷費	400,000	コピー機リース、コピーカウント代
若手育成費	200,000	JSCESスカラシップアワード(2017年)副賞
事務経常費	9,735,000	
人件費	6,000,000	事務局
法定福利費	750,000	事務局(厚生年金・健康保険・労働保険料・雇用保険)
通勤交通費	500,000	事務局、理事
什器・備品費	100,000	会計ソフト保守費等
光熱費	200,000	電気、水道、ガス
消耗品費	250,000	事務局消耗品、学会封筒(長3、角2)
事務所賃料	1,685,000	事務局賃料、更新年度(1ヶ月)
選挙費	10,000	2018・2019年度代表委員・役員理事選出選挙
租税公課	70,000	法人都民税
保険料	20,000	火災保険更新
雑費	150,000	三菱UFJ・みずほWEB利用料、WEB・ATM振込手数料、貸金庫利用料等
学会運営費	500,000	会計事務所、司法書士
計	26,985,000	
国際会議積立	0	
IWACOM積立	500,000	
WCCM積立	500,000	
川井基金積立	0	
庄子基金積立	0	
フェロー基金積立	0	
JSCESスカラシップアワード基金積立	0	
支出計	27,985,000	
収支増減(純利益)	0	

◆積立金状況
国際会議積立金
【収入の部】

【第6号議案】

項目	2018年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	2,239,205	
合計	2,239,205	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	2,239,205	
合計	2,239,205	

IWACOM準備金

【収入の部】

項目	2018年度予算案	
積立金	500,000	
前年度繰越金	0	
合計	500,000	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	500,000	
合計	500,000	

WCCM準備金

【収入の部】

項目	2018年度予算案	
積立金	500,000	
前年度繰越金	0	
合計	500,000	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	500,000	
合計	500,000	

◆基金状況

川井基金

【収入の部】

項目	2018年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	483,692	
合計	483,692	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	
取り崩し金	20,000	川井メダル作成費
今年度繰越金	463,692	
合計	483,692	

庄子基金

【収入の部】

項目	2018年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	672,561	
合計	672,561	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	
取り崩し金	50,000	庄子メダル作成費、サマーキャンプ補助金
今年度繰越金	622,561	
合計	672,561	

フェロー基金

【収入の部】

項目	2018年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	60,000	
合計	60,000	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	60,000	
合計	60,000	

JSCESスカラシップアワード基金

【収入の部】

項目	2018年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	570,094	
合計	570,094	

【支出の部】

項目	2018年度予算案	
取り崩し金	200,000	JSCESスカラシップアワード(2017年)副賞
今年度繰越金	370,094	
合計	570,094	

諸規程制定（案）

役員等の報酬及び費用に関する規程（案）

役員等の報酬及び費用に関する規程(案)

2018年5月22日制定(社員総会で決定)

第1条 (目的)

本規程は、一般社団法人日本計算工学会の役員等の報酬及び費用の支給についての必要な事項を、定款第27条3項に基づき定めるものである。

第2条 (報酬等)

本会の役員(理事及び監事)は、その在任中報酬を受けず、退任時において退職金は支給されない。

第3条 (費用の支給)

本会は、役員の仕事執行に要する交通費等の実費相当額を費用として支給することができる。

2. 役員の仕事、旅費(宿泊費を含む)の支払いについては、別に定める旅費に関する申し合わせによるものとする。

第4条 (改廃)

本規程の改廃は社員総会の議を経て行う。

規程制定の根拠

定款

【報酬等】

第27条

理事及び監事は無報酬とする。ただし、常勤の役員には報酬を支給することができる。

2 役員には、その仕事を行うために要する費用の支払いをすることができる。

3 前2項に関し必要な事項は、社員総会の決議により別に定める役員等の報酬及び費用に関する規程による。